

デンドロビウム(ノビル系)の育て方(1)

栽培管理

置き場所

5月頃、霜の心配がなくなれば戸外に出します。日が十分当たる風通しの良い場所を選び、雨水のはね返りのない棚上などに置きます。春と秋は直射日光に十分当てますが、夏は葉焼けしないように寒冷紗などで30%程度遮光します。

花芽をつけるためには、秋の低温にあわせる必要があります。霜の降りる直前まで戸外で育ててから室内に入れます。冬の間はガラス越しの日によく当てます。最低温度は7～8℃以上に保ち、日中は25℃以上、夜間は15℃以上にならないようにします。

水やり

生育期の春～秋は、乾いたらたっぷり水やりします。冬に適温が保てない場合には、植え込み材料の表面が乾いてからさらに4～5日待って、暖かい日の午前中に水やりをします。

肥料

5月と6月に1回ずつ、油粕と骨粉を等量に混合し、親指の頭大に固めたもの(市販のものでも可)を4号鉢で1～2個与えます。あわせて春～秋に液肥を10日に1回程度与えてもかまいません。

支柱立て

9月～10月には新芽が充実し、茎が倒れやすくなるので、支柱を立てます。

病虫害の防除

ウイルス病に感染した株は、若い葉に黄色のモザイク状の病斑や葉脈に沿って緑色の濃淡が入ったりします。見つけ次第早々に処分するか、他の株から隔離しましょう。新しい葉が生長したころ、葉に黒い斑点が入る黒斑病が発生することがあるので、ベンレート水和剤1,000倍液等で防除します。

デンドロビウムの年間管理表

管理	月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	
置き場所		戸 外							室 内 最低温度7～8℃(できれば10～13℃)					
日当たり (%は遮光率)		徐々に慣らして 日によく当てる		30%			日によく当てる		ガラス越しの日によく当てる					
水 や り		乾いてからたっぷり							乾いて4～5日後					
肥 料		● 置肥 ●		液肥10日に1回			リン・カリ肥料(液肥)10日に1回							
作 業		→ 植え替え			← 芽ざし		→ 支柱立て		← 芽ざし ← 植え替え ← 高芽とり					
									→ 高芽とり					



デンドロビウム(ノビル系)の育て方(2)

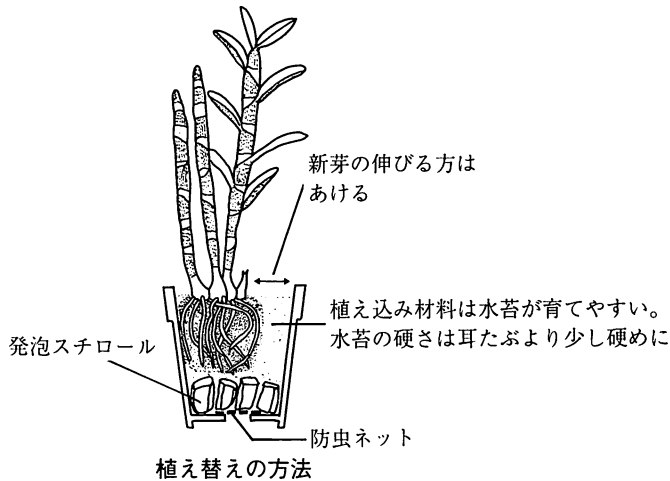
植え替え

植え込み材料

水苔が適します。

植え替え時期と方法

株が鉢いっぱいに生育し、新芽の伸びる余裕がなくなったものや、植え込み材料の古くなったもの、生育が良くないものは花が終わったら植え替えます。新芽や新しい根を傷めないように植え込み材料の古い部分を取り除き、新しい植え込み材料で、やや固めに植えます。



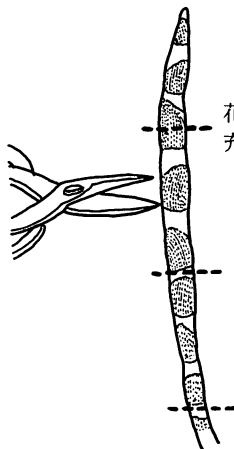
繁殖

株分けは、植え替えをかねて、新芽1本に対しバックバルブを2～4本つけ1株として分けます。あまり小さく分けると花が咲きにくくなったり、生育が悪くなったりします。高芽や茎ざしで殖やすこともできます。

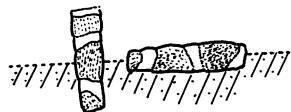


バルブの途中に発生した高芽は、葉が3枚以上、根が数本出ていれば取りはずして水苔で植える

高芽どりの方法



花芽のつかなかった昨年の茎で、充実したものを2～3節に切る



水苔に横に伏せるか、1節だけ水苔にさす

茎ざしの方法

